

中部圏広域地方計画の改定について

【背景】

- ・急激な人口減少・少子化
- ・異次元の高齢化
- ・巨大災害の切迫、インフラ老朽化
- ・グローバル化・国際競争
- ・2027年リニア名古屋開業、2045年リニア全線開通
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック 等



- ・「国土のグランドデザイン 2050」を踏まえ、中部圏の国土・地域構造が如何にあるべきか等、国土政策の基本方針と基本戦略を具体的に示すとともに、関係者で共有することが必要

【改定計画の目標期間】

2050年頃を展望しつつ、今後概ね10ヶ年

【ねらい（方向）】

- ・中部圏の産業特性（ものづくり）や地域特性（歴史・文化・産業、環境・景観、地域や人のつながり、生活環境等）などを活かした地域の創生
- ・リニア開通により形成されるスーパーメガリージョンの要となる中部圏の具現化
- ・中部圏を自然災害から守る
- ・東京一極集中からの脱却に資する、人口環流や首都圏機能の再配置の受け皿づくり

【検討の視点】 → 次ページ

検討にあたっての主な視点

1. 中部圏として特徴ある検討課題への対応

- ① ものづくり産業の集積を最大限活かし、更に発展させていく
 - ・ものづくり産業の高度化・厚みの拡充、国際競争力、産業基盤・陸海空ネットワーク強化
 - ・ものづくり技術の中核圏化
- ② リニア開通に伴う新たな中部圏の形成
 - ・スーパーメガリージョンの要、超高速性を活かした新たな価値創造と中部圏全体への波及、首都圏機能のバックアップ
 - ・中部・北陸圏の連携強化、南北国土軸・環状軸の強化
 - ・広域観光交流圏の形成
- ③ 南海トラフ巨大地震など大規模災害への備え
 - ・巨大地震、激甚化する風水害・土砂災害、火山噴火災害などへの備え
 - ・インフラ老朽化への対応、インフラを賢く使う
- ④ 地域や人のつながり、地域コミュニティの強さを活かした地域づくり
 - ・製造業を中心とした産業構造における、女性活躍社会の構築
 - ・女性・子育てに係る就業・生活環境の改善

2. 全国的な課題への対応を、中部圏において具体化

【地域の創生】

- ① まちづくり、地域づくり（コンパクト＋ネットワーク、小さな拠点、対流）
- ② 地域産業（地域資源、農林水産業、働く場）
- ③ 観光（国際、国内）
- ④ 国際交流

【参画・連携】

- ⑤ 地域の担い手と育成（若者、教育、女性、高齢者）
- ⑥ 共助社会

【環境】

- ⑦ 自然環境、地球環境問題

3. 圏域のあり方

- ① コンパクト＋ネットワークの具体化に向けた圏域
 - ・地域特性や将来人口の展望を踏まえ、生活サービス機能や各種高次都市機能等を分担・連携する圏域
- ② 北陸圏など他圏域との連携

※中部圏の特性を踏まえ、方針、目標（戦略）等を整理、合わせて関連プロジェクトを位置付けることを目指して、検討